Taxon **17**: 663–719.
Jan van Veen (photo), Johan Rijnen and Jan Nelissen (text). 1971. 300 Jaar Hartekamp.
大場秀章 2005. 自然の体系. 大場秀章（編），Systema Naturae–標本は語る. 12–26 pp. 東京大学総合研究博物館.
Stearn W. T. 1957. An introduction to the Species Plantarum and cognate botanical works of Carl Linnaeus. The Ray Society, London.
（東京大学総合研究博物館）

新　刊

□大場秀章（編）：**Systema Naturae 標本は語る**　250 pp. 2004. B 5 版. 東京大学総合研究博物館. ISBN: no number.

2004年10月から2005年 5 月にかけて行われた，東京大学の自然史関係コレクション展示の図録である.「自然の体系」,「展示解説」「展示」の 3 部に分かれ,「展示解説」が190頁を占め，その中は鉱物界（40頁），動物界（116頁），植物界（33頁）にわたってそれぞれの分野の人が専門的な解説を行っている.

解説は系統・進化・多様性に重心を置いたもので，展示解説によく見られる，標本個々の記述や由来を物語る記述はほとんどない. 本の表題から察せられるように，Linne の Systema Naturae を下敷きにした編集方針で統一されている. 植物界のところでは，ユキノシタ科，トウヒレン属，水生植物が重点的に示され，従来の分類上の観点と，最近の分子系統研究の成果が比較されている.「展示」の部では，多様性を系統・進化に裏付けてどのように表現しょうとしたかが，準備段階から完成配置までを映像やスケッチによって，言葉少なに語られている. 大学博物館だからこそできる毛色の変わった展示で，一度や二度見るだけではとても消化できず，本書を読んでからあらためて見学に出かけるのが正解だったと思われる.

第一部の「自然の体系」は大場氏の筆になるもので，プレ・リンネから最近の 3 ドメイン説に至るまでの自然観の変遷を分かり易く要約している. また大学博物館が自然史研究に占める役割，とくに長年にわたって蓄積した標本の意義が強調されている.

入手については東京大学コミュニケーションセンター（113-8654 東京都文京区本郷 7–3–1, Tel: 03-5841-1039, Fax: 03-3814-3423）に申し込めば，代金引換で送付するとのこと. 本体2,940円＋送料840円である.（金井弘夫）

□加藤僖重：**「野草」総索引**　291 pp. 2005. ¥4,000. A 4 版. 野外植物研究会. ISBN: no number.

東京を中心として70年の歴史をもつ同好会誌の，著者別総索引である. 著者別索引といえば，表題を著者別にまとめれば出来そうに思えるが，そう簡単ではない. たとえば檜山庫三氏の「ボタニカルノート」は，後ろに連番がついているだけで延々154回に達しており，これだけでは内容がサッパリわからず，索引としての利用価値が少ない. それぞれの報文の副題にまで立ち入った表示が必要になり，たいへん厄介である. 檜山氏に限らず，アクティブな発表者の報文にはこの種のものが多いから，各号の目次を写すだけでは済まないのである. 加藤氏はそれらを丹念に拾って，索引を利用価値の高いものに仕上げてある. 座談会での話題まで拾ってある.「野草」は有用な内容を含むことで知られているが，この索引によって，より有効な利用ができるようになった.

索引は時系列的に 7 つの期間に分け，それぞれについて著者の50音順に配列されている. この分け方は，会の発展の各エポックで区切られたもので，発表者や話題の変遷をたどるのに有用であると思うが，総索引としては，こういう区切りなしの方が私には使い易い感じがする. 現在「種類別索引」を準備中とのことなので，検討してほしい. 連絡先は 180-[redacted] 武蔵野市 [redacted] 野外植物研究会.（金井弘夫）